

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年2月3日(火)

### 《死者のためのミサ・人の命を人が奪うことはできない》

今日のミサには、意向があります。それについて皆様と考えたいと思います。

一つ目の意向は、亡くなられた方が永遠の安らぎを得られるように、という気持ちで捧げられています。もう一つは、死刑の判決を受けている人のための意向です。

まず、私たちは死んだ後、行ける場所がいくつあると思いますか。これは伝統的なカトリックの教えの話です。死んだ後、行ける場所は、3つですね。一つは天国、二つ目は煉獄、三つ目は地獄です。その中で、私たちが必ず通らなくてはならない場所は、煉獄です。煉獄へ行かなかったのは、マリア様だけです。原罪を持っている人はみんな、死んだ後に煉獄へ入り、清めの段階に入ります。そして、そこで、天国と地獄のどちらに行くかを決められます。

プロテスタントの教会は、煉獄を認めていません。直接天国に行くか、直接地獄に落ちるか、二つのうちの一つだと言われています。しかし、霊的に優れた数多い聖人、聖女達の霊的な証言によれば、私たちは命が終わると必ず煉獄に行くのだそうです。そして、そこで清められます。

では、清められるためには何が必要でしょうか。私たちの靈魂は、罪をもって煉獄へ行きます。罪を赦されるためには、生きている人々の祈りが必要です。そして、生きている人々の祈りの中で一番素晴らしいのはミサであると教会は教えています。

私たちは、自分の父が亡くなくても、天国にいるのか、まだ煉獄でさまよっているのか、自分が生きている間は、わかりません。直接会えれば、もう天国に来ている、と分かるかもしれません。しかし、自分が生きている間は、亡くなった人がどちらにいるのかわかりません。父が亡くなって20年経つけれども、もしかしたらまだ煉獄でさまよっているかもしれない、だから万が一のために、という気持ちでミサを捧げます。天国にいる人々のためには祈る必要はありません。死者のために捧げるミサの全ては、もしかしたら煉獄にいるかもしれない人のために、その靈魂が天国に入れるようお願いする祈りです。もうすでに、天国にいるのがわかっていたら、ミサの必要はありません。

死者のために捧げるミサは、煉獄にいるかもしれない魂のために捧げるものであることをこのミサをとおして理解しましょう。

次の意向は、間違えた判決により死刑にされる人がいるので、その人が死刑を受けないで済むように、次の裁判では勝てるように、という気持ちで、ある方が持って来られました。死刑判決が取り消しになるかどうかの前に、私たちには意識しなければならないことがあります。それは、カトリックの教えでは条件なしに死刑に反対する、ということです。

韓国では、今、6人を殺した人が捕まったことでものすごく騒いでいます。韓国では、たとえ容疑者であっても、犯人の判決が出るまでは顔を公表できません。どれほど大きな罪を犯していても、みんなが知っていて、本人の自供があっても、人権問題や家族のことがあり、警察は犯人の顔を発表できません。現場検証をする時、みんなが見に来て、あのような罪を犯した人のためになぜ人権を考えるのか、顔を隠しているマスクをはずすように、と叫びます。私でもそのような人を人間としては認めたくない、殺してしまいたい、と思います。ふつうの良心的な人間ならば、みんなそういう気持ちを持っていると思います。

しかし、カトリック教会では2000年間、"死刑は許されない。人間の力で人間を裁くこと、まして命を奪うことまでは許されない。"と強く言っています。私たちはなぜそれを理解しなくてはならないのでしょうか。理由は、ただ一つです。イエス様は、人の命を奪ったことがありません。それなのに、自分の命をとんでもないことで奪われました。しかし、十字架の上で、「この人々は何も知らずに

罪を犯したのです。赦してください。」と祈りました。どれほど悔しい気持ちになってもイエス様くらい悔しい体験をした人はいないと思います。

神様の子として、自分が作った人間によって殺されました。しかも、自分が作ったものなのだから、よくなってほしい、と言いながら殺されました。それなのに、イエス様は、自分を殺した人を殺せとは言わずに、その人を赦してくださいと祈ったのです。ですから、カトリック教会は、"人間の命は、絶対に人間の力で奪うことはできない"ことを固く守っているわけです。

先ほど、たとえとしてある人殺しの話をしましたが、たぶんそのような人を見たら、信者でなくても殺したい気持ちになると思います。特に殺されたのが家族や愛するものであれば、仕返しをしたい気持ちになると思います。しかし、カトリック信者として"イエス様の道に従います"という心を持っている私たちは、条件なしに死刑に反対しなければならないのです。それも一つの自分との戦いではないかと思います。

今、日本ではまだ死刑が行われていますね。そういうことも意識して、「できるだけ早くあなたのみ旨が行われるようになりますように」という意向を持って、私たちは祈らなければならないと思います。

ありがとうございました。